

JR姫路駅の東側に新たに生み出される広大な街区を  
「核(コア)となる区域」

『コアゾーン』

姫路駅北駅前広場と  
その西側に隣接する街区(12街区)等を  
姫路の玄関口に位置することから

『エントランスゾーン』

## コアゾーン等 整備検討対象区域



# キャストィ21の コアゾーン等について

姫路市では、JR姫路駅周辺において、鉄道高架事業と一体的に進めている基盤整備や施設整備事業を「姫路駅周辺地区総合整備事業（キャストィ21）」と呼んでいます。

「キャストィ21」では、鉄道高架事業の進捗に併せて、土地区画整理事業及び関連道路事業等の基盤整備を一体的に行っていくとともに、鉄道高架事業により発生する広大な貨物ヤード跡地等を活用し、ゆとりと潤いのある都市環境を創造するとともに、高度な都市機能を導入して播磨地域の中核都市にふさわしい魅力と活力にあふれる都心を形成するため、官民の協調と適正な役割分担の下、総合的に都市基盤及び施設整備を進めていきます。

「キャストィ21」計画区域の中でも、鉄道高架事業によってJR姫路駅の東側に新たに生み出される広大な街区を「核（コア）となる区域」として「コアゾーン」、姫路駅北駅前広場とその西側に隣接する街区（12街区）等を姫路の玄関口に位置することから「エントランスゾーン」と呼んでいます。

コアゾーンのAからCブロックや12街区については、民間主導の開発を基本にしています。

姫路市が期待する理想的なまちづくりを進めていくため、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（旧国鉄清算事業団）の所有地を、市が一時的に取得した上で、民間開発を適切に誘導していく必要があると考え、平成19年7月にAブロック及びBブロックを約27億円、また、平成22年3月には、Cブロックと12街区にある同機構の土地を約8億5千万円で購入しています。

